

ヤシカ35ミニスターの使い方

YASHICA



minister

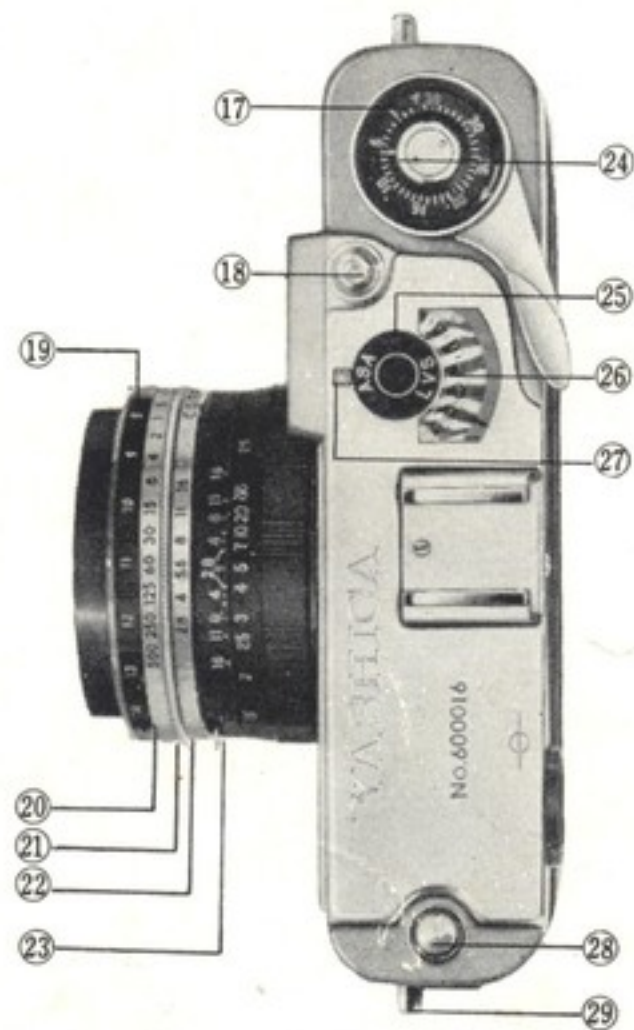
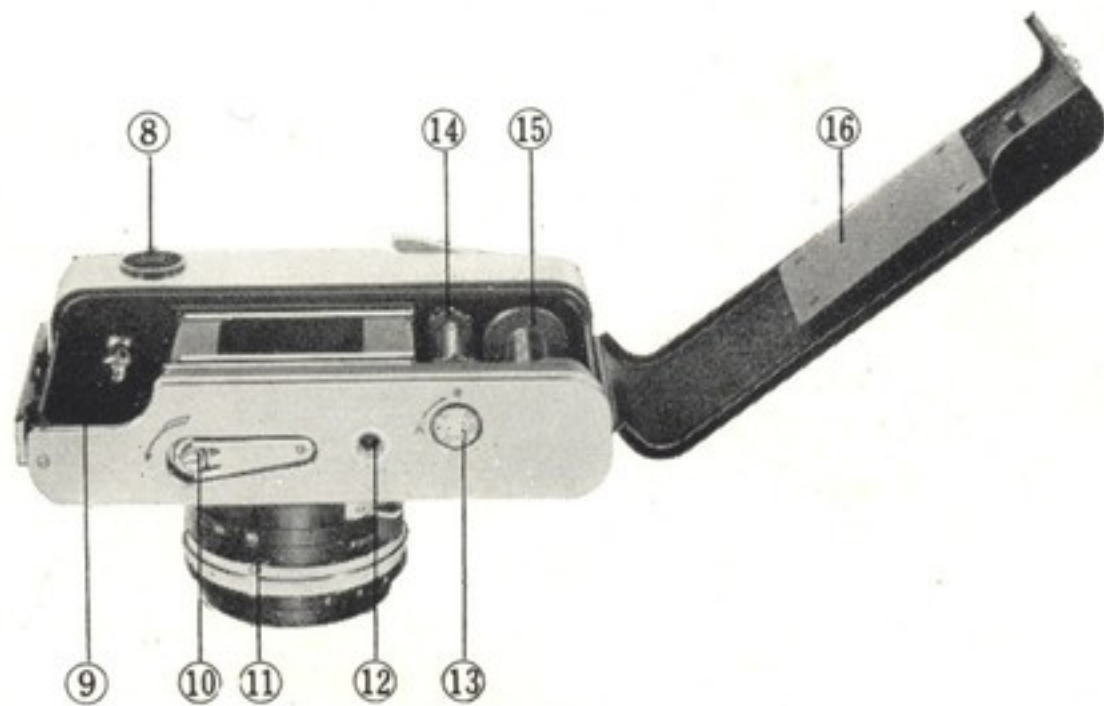
各部の名称



- ① フィルム巻上げレバー
- ② 露出計受光面
- ③ シンクロターミナル
- ④ 焦点調節レバー
- ⑤ 撮影レンズF2.8・45 mm
- ⑥ ファインダー窓
- ⑦ アクセサリーシュー
- ⑧ ファインダー接眼部
- ⑨ バトロネ室
- ⑩ フィルム巻戻しクランク
- ⑪ セルフタイマーレバー
- ⑫ 三脚取付け用ネジ穴
- ⑬ フィルム巻戻し切替えダイヤル
- ⑭ スプロケット軸

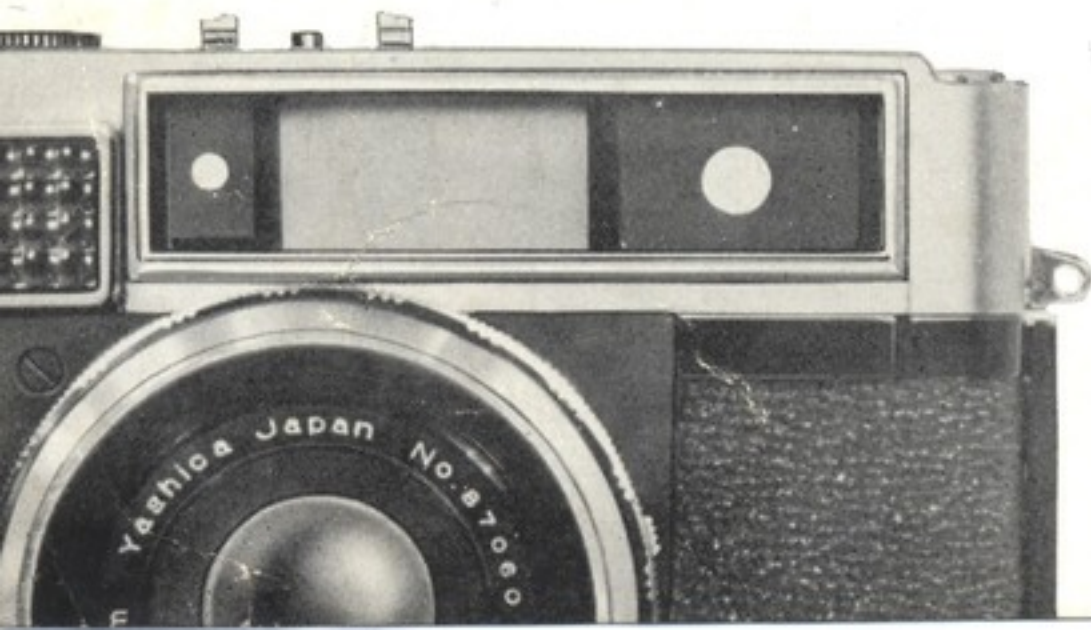
- ⑮ フィルム巻取りスプール
- ⑯ プレッシュャープレート
- ⑰ フィルムカウンター
表示盤
- ⑱ シャッターボタン
- ⑲ ライトバリュウ数値
調節用リング
- ⑳ シャッター速度目盛環
- ㉑ シャッター速度・絞り
調節用リング

- ㉒ 絞り目盛環
- ㉓ 被写界深度目盛
- ㉔ フィルムカウンター
合せ指標
- ㉕ ライトバリュウ数値・A
SA感度調節用ダイヤル
- ㉖ 露出計表示窓
- ㉗ ASA感度表示窓
- ㉘ フィルム送り指示マーク
- ㉙ 吊り革用グリップ



ファインダーは

焦点調節はヘリコイド式です。ファインダーを覗きながら焦点調節レバーを廻してゆくと、二重像が合致しますからその時シャッターを押せばピントは正確にあうようになっています。ファインダー内には、写真のような丸い円形があり、この内の二重像の合致によってピント調節をします。



ピントの合った時



ピントの合わない時
(像がずれてみえる)

▶ ブライトフレームとは

ファインダーを覗くと、写真のようなフレーム（光像枠）が見えます。これをブライトフレームといって、この明るい光の線の中が実際に写る画面です。ファインダーを覗いた時、このフレーム内で構図をきめてください。

▶ パララックス自動匡正とは

ミニスターにはパララックス自動匡正装置がついています。ファインダーを覗いて、焦点調節レバーを動かしてゆけば、ブライトフレームが撮影距離の移動によって少しずつ動きます。これがパララックス（視差）自動匡正で、近接撮影でよくやる人物の頭を切ったりする心配は完全に防止されます。遠景の場合はフレームが左上に動き、近景の時はフレームが右下にさがって視差を匡正します。



遠景の時のパララックス



近景の時のパララックス

ライトバリュースシャッターの使い方

ミニスターの露出をきめる操作は、従来の絞りとシャッター速度を合せるという考えを捨ててライトバリュース目盛を合せると考えてください。

ミニスターの露出決定操作は、片手一回でできるライトバリュース方式です。この方式は一度ライトバリュース目盛をセットすれば、同じ条件下での幾通りもの適正絞りとシャッタースピードの組合せができます。

▶ シャッター目盛

B (バルブ) 1 · 1/2 · 1/4 · 1/8
1/15 · 1/30 · 1/60 · 1/125 · 1/250 · 1/500秒

▶ 絞り目盛

F2.8 · 4 · 5.6 · 8 · 11 · 16
ライトバリュース数値 2 ~ 17

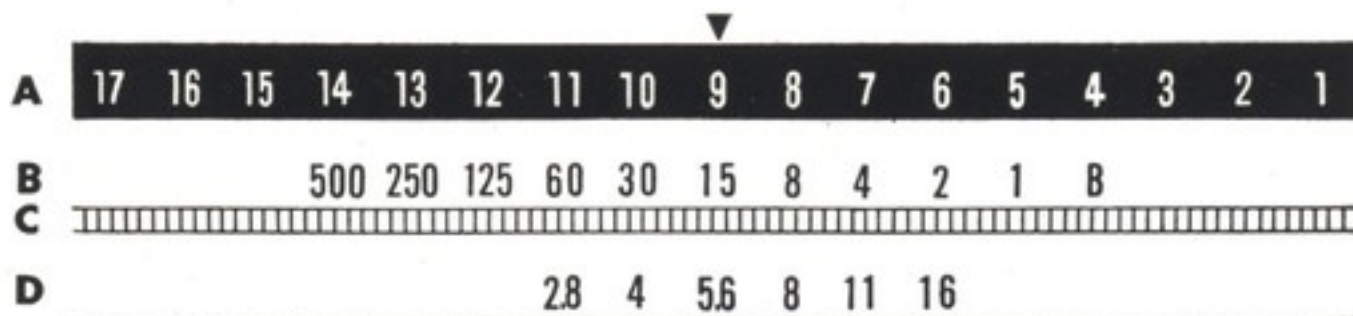
ライトバリュース
数値合せ指標
ライトバリュース
目盛 2 ~ 17
シャッター目盛
シャッター・絞
り調節用リング
絞 り 目 盛



絞りとシャッターの調節は

ミニスターのライトバリュウ数値、シャッター速度、絞り数値の配列は下の図のようになっています。

まず、露出計でライトバリュウ数値が決ったら、ライトバリュウ調節リング①を廻し、指定の▼に適正露出のライトバリュウ数値を合わせます。すると、自然に絞り目盛とシャッター目盛が動いて適正なシャッター速度と絞り数値の組合せが決ります。これで絞りとシャッター操作は終わったのですが、同じ条件下でシャッター速度②または、絞り目盛④をかえたい時は、シャッター速度、絞り調節用リング③を持って動かせば、常に一定の露光量が得られます。



ライトバリュースとは

● 適正露出にも色々な組合せがあるのです。いま、ある場所で撮影する場合にその適正露出がF8で $\frac{1}{125}$ 秒とします。この時、 $\frac{1}{60}$ 秒の遅いシャッターで写したいとすれば、絞りは一段絞ってF11にしなくてはなりません。これも光量の点では、F8・ $\frac{1}{125}$ 秒と同じ露出になります。このように、同じ光量（露出）を与える絞りとシャッターの組合せはいく通りもあるのです。この組合せを利用したものがライトバリュース方式というシャッター機構です。

● ライトバリュースとは、口径比F1というレンズを仮定して、このレンズで1秒の露出の適正な明るさを1とします。すると2倍の明るさになったときは、F1・ $\frac{1}{2}$ 秒が適正露出となります。これを基準にして表わした光値数のことをいいます。

次頁の表が絞りとシャッターの組合せを表にしたライトバリュース光値数表というもので、このような関係がミニスターではシャッター機構に組込まれています。従来の露出の決め方は、絞りとシャッターの2本建で表わしたのですが、ライトバリュースでは2とか17とかいう1つの数値で表わせるため便利です。

ライトバリュー光値数表

● いま、一つの組合せ、ライトバリュー数値12 絞 F5.6 $\frac{1}{125}$ 秒に露出を合せておけば、絞り F8 にすれば、シャッターは自動的に $\frac{1}{60}$ 秒に変わり、逆にシャッターを $\frac{1}{250}$ 秒にすれば絞りは自動的に F4 に開かれます。つまり同じ露出で幾通りもの組合せが自動的にできるわけである。

B \ A	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
F 1	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$								
1.4		1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$							
2			1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$						
2.8				1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$					
4					1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$				
5.6						1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$			
8							1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$		
11								1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$	
16									1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$
22										1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{250}$
32											1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{125}$

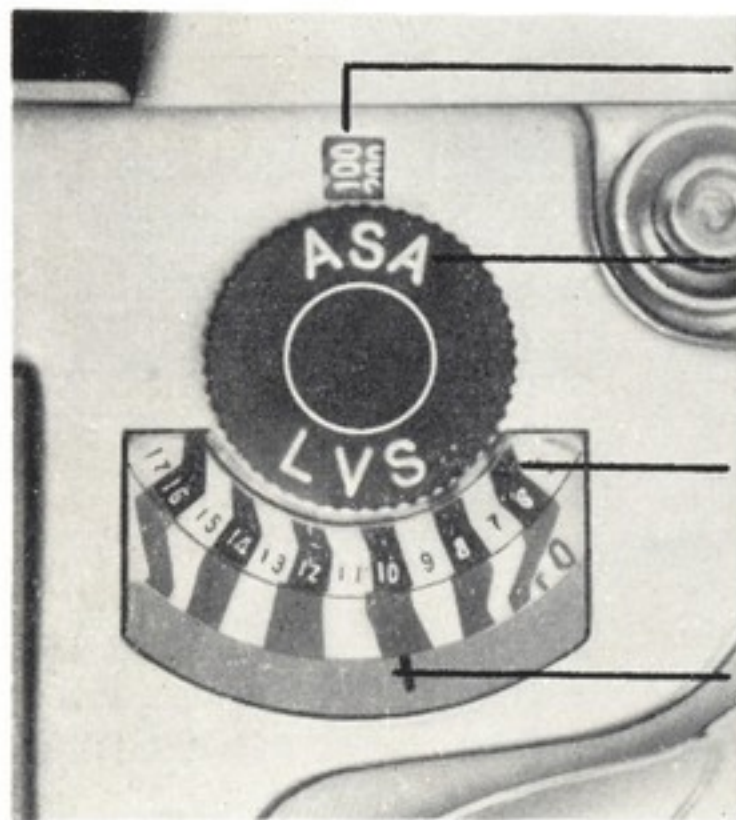
A—ライトバリュー数字 B—絞り目盛 表中の数字はシャッター速度

上の表は、絞りとシャッター速度とライトバリュー数値を表にしたもので、F8 $\frac{1}{60}$ 秒が適正露出とすればライトバリューは、12となります。この12の適正露出の組合せは8つあることがわかり、その組合せのどれを採用しても適正露出となり写す人の判断によって組合せがまります。

露出計によって 正しい露出決定

● 赤と赤を合わせれば露出は決定

指針の示した数字とライトバリューリング
の赤数字とを合わせます



フィルムASA
A感度表示窓

ライトバリュー
ASA感度調
節用ダイヤル

赤 ライトバリ
ュー数値

赤 指 針
(露出計指針)

☆フィルムのASA感度（フィ
ルムの感光度指数で、フィルム
説明書に書いてある露出指数の
ことを云います）をフィルムA
SA表示窓に合せてください。



1

A S A感度表示窓に調節用ダイヤルを回して、フィルムのA S A感度を合せます。(フィルムを入れた時に必ず合せましょう)

2

カメラを被写体に向けると露出計の針が動いて、一定のところにとまります。

3

この針の指しているライトバリュウー数値を読みとります。このライトバリュウー数値がその時の適正露出なのです。

4

適正露出のライトバリュウー数値がきまったら、ライトバリュウー数値調節リングを持ち、ライトバリュウー数値合せ指標▼に適正露出の数値を合せます。これでその時の条件に合ったシャッター速度と絞りが得られます

露出についての注意

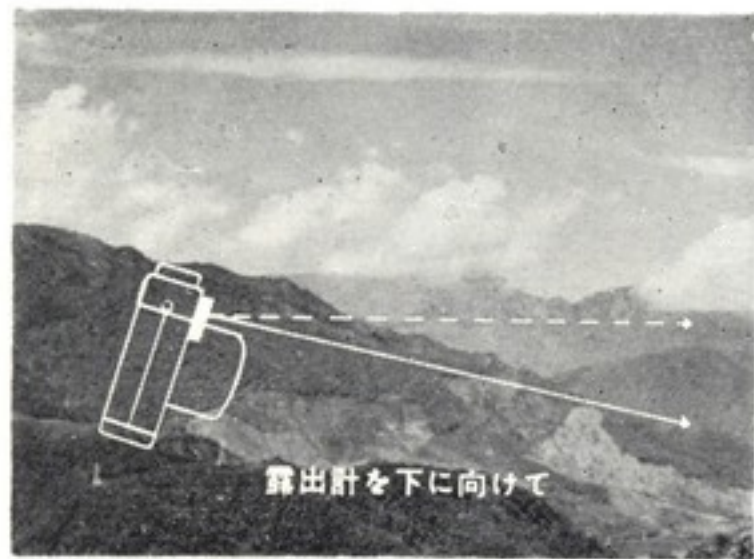
▶ ミニスターの露出計は反射光方式で、被写体から反射してくる光の強さを測り露出を決定するようになっていきますから、カメラを被写体に向ければ露出が得られるわけです。

しかし、カメラをただ単に被写体に向けただけでは、被写体以外からの光や影などの影響によってよい結果が得られない特殊な場合や、写す人の興味のおき所によって露出が違ってくる場合もあります。

このような時は、標準反射板(18%の反射率を持った光沢のない灰色の粗面紙ですが、市販されている標準反射板をなるべく利用して下さい)または、手のひら等を利用すると良い結果が得られます。そこで、次頁に露出の決め方で注意すべき被写体の例をあげてみましたから参考にしてください。

こんなときの 露出に注意

☞ 空が画面に入る時は…



☞ ポートレートの場合



人物に近寄って、被写体の明るい部分、影の部分等を測り、その平均値を読みとって露出をきめてください。その時、自分の影やカメラの影が測定面に入らないよう注意してください。

空は目で感じる以上に明るいものですから、画面に空を入れた時は、その強い光で露出計の針が振れ過ぎます。また、広い風景、明るい街路、水面、遠い山などでは光が散乱してしまいますから、一般に露出計の針が振れ過ぎます。このような時は、とにかく露出不足になりがちですから、露出計を下に向けて、空からの光があまり入らないようにして、露出をきめるようにしてください。

逆光線撮影のとき



逆光線撮影では、直射光が露出計の窓に入ることがありますから気をつけてください。

○被写体（人物等）を明るく描写したいときは、被写体に近寄って背景の明るい光線が受光面に入らないよう注意して被写体そのものに露出を合せてください。○被写体をシルエットに描写したいときは、明るい背景に露出を合せて撮影します。○被写体も背景も両方描写したいときは、被写体の影の部分の露出と背景の露出とを計り、その測定値の平均の露出で撮影します

窓際の人物撮影等は



窓際の人物撮影も露出の決定がむずかしいものです。カメラの位置が変わっても、人物の位置が少し移動しても露出計の針がすぐ変わってきます。窓の外景が主なら外景に露出を合せばよいのですか、窓際の人物の場合なら窓際によって人物の顔の明るいところ暗いところ等を計ってその平均値をとった露出で撮影するようにしてください。



白バックの中の人物等は

白壁の前の黒い人物、雪景色の中の人物などは、普通の計り方ではとかく人物が露出不足になりますから、人物に近づいて露出をきめるか、もし近づけない時は標準反射板か手のひらを利用して露出を計るようにしてください。



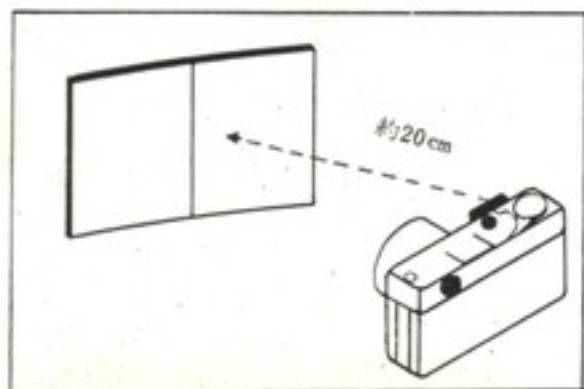
黒バックの中の人物等は

黒い塀の前の人物、森の前の人物、暗い室内バックの人物などは、普通の計り方ではとかく人物が露出過度になってしまいますから、人物に近づいて計るか、もし近づけない時は手のひるか標準反射板を利用して露出を計ってください。



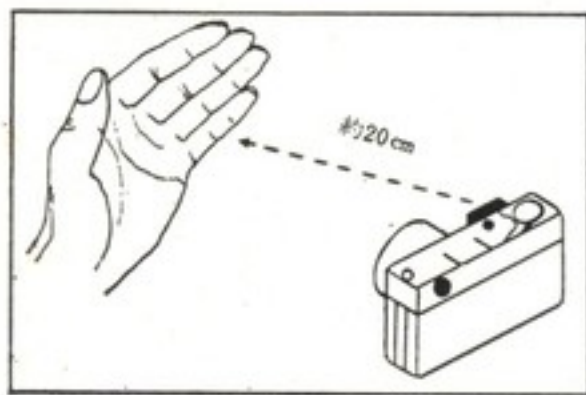
近寄れない時などは

被写体とバックの光量の差がはげしく、しかも被写体に近寄れないような時は、近くにあるもので被写体と近似したものを測定して露出をきめるか、標準反射板または手のひらを利用して露出をきめるようにしてください。



標準反射板を利用したとき

手のひらを利用したとき

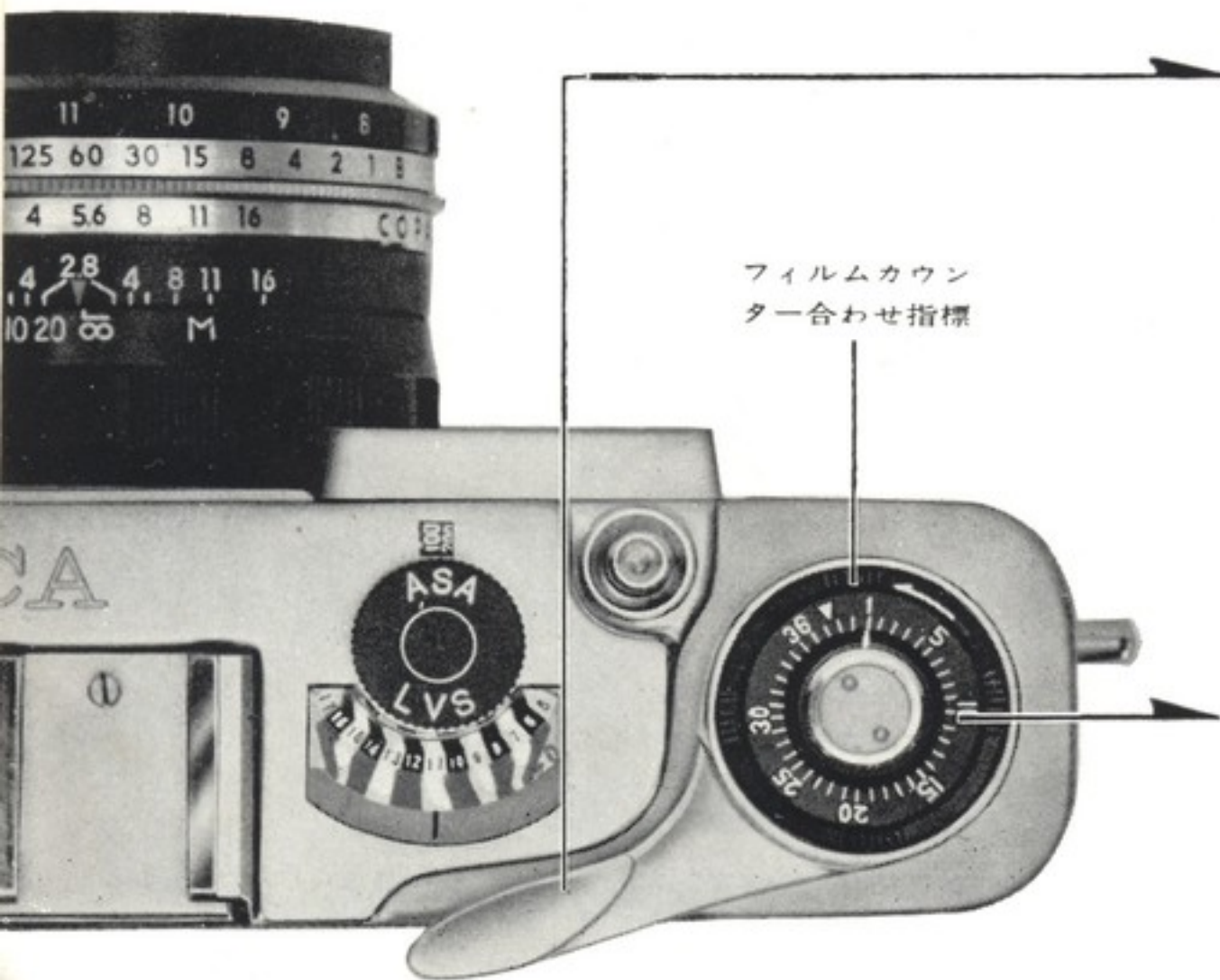


● 光線の強い場合 雪景色 真夏の海岸などでは……

光線の強い時、雪景色、真夏の海岸などでは、フィルターを併用した方が調子のよい写真をとることができます。フィルターには Y2・O₂・ND など用途によってそれぞれ別けられていますから、使い方によって選んでください。フィルターを使用した時は、当然露出も変わってきますから、フィルターについている露出倍数（Y2なら2倍）だけ露出を変えなければなりません。ミニスターではライトバリュー数値を調節することにより露出の調整を行います。

（例）いま、露出がライトバリュー数値⑰（絞 F16・ $\frac{1}{500}$ 秒）の時、2倍のフィルターを使用したとすれば、ライトバリュー数値を1目盛落して⑯にして撮影すればよいわけです。4倍ならライトバリュー数値は⑮となります。

フィルム巻上げとフィルムカウンター



フィルムカウン
ター合わせ指標

フィルム巻上げレバー

ミニスターの巻上げレバーは一作動回転式（巻上げ角度180°）を採用しています。またフィルム巻上げと同時にシャッターがセットされるセルフコッキング方式ですから、二重撮りをする心配はありません。

フィルムカウンター

フィルムカウンターは巻上げレバーを一作動するごとに一目盛ずつ動く順算式です。フィルムを入れたらカウンターを回して ▼印を指標に合わせてください。（必ずカウンター一目盛の合わせを忘れないよう注意してください）

▶ ASA 感度表示窓

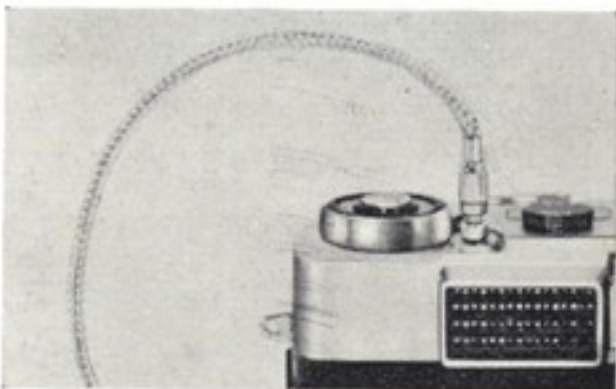
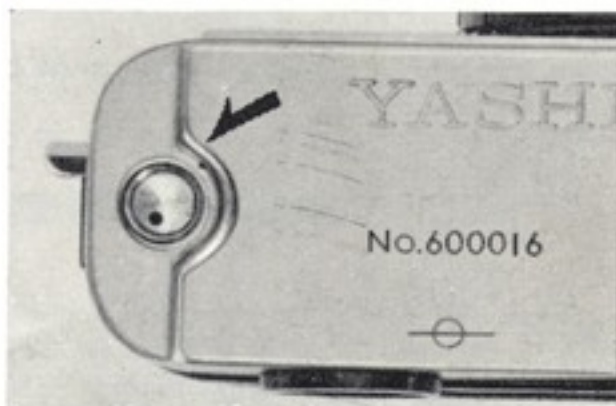
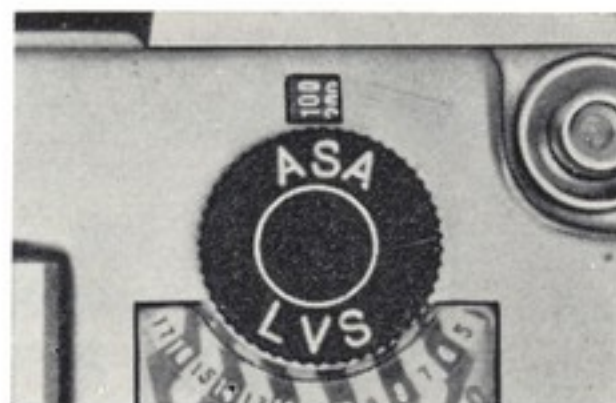
露出計のところにフィルム感度を表示するASA感度表示窓がありますから、フィルムを入れたらかならず、LVS・ASA感度表示ダイヤルを回して使用フィルムのASA感度を合わせてください。

▶ フィルム送り指示マーク赤点

カメラにフィルムを入れて撮影している時、フィルムが送られているかどうかを示すためのマークです。フィルムを巻上げた時この指示マーク赤点が廻転すれば正しく送られていることになります。

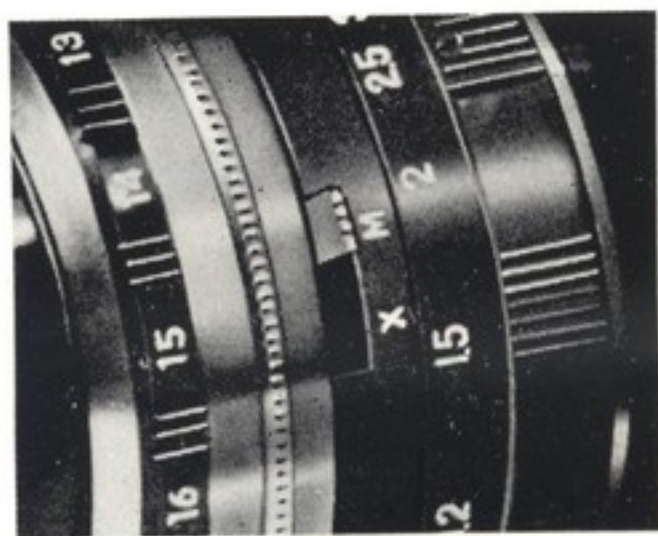
▶ レリーズ使用の時

レリーズを使用する時は、写真のように、シャッターボタンのネジ穴にねじ込んで使用します。 $\frac{1}{15}$ 秒以下のシャッターを切る時はレリーズと三脚を使用してください



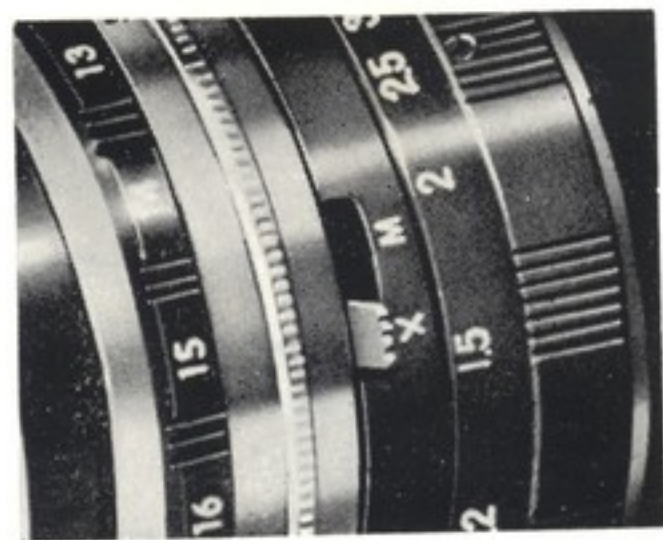
シンクロ撮影は

ミニスターのシンクロは、ストロボでもF球・M球
閃光電球でも使えるフルシンクロです。接点はボディ前
面にありドイツプラグ接点です。レンズ鏡胴部にシンク
ロ切替えレバーがありますから、M球を使う時はM接点
にストロボやF球を使用する時はX接点に切替えて使用
してください。ストロボなら全速度に、F球なら $\frac{1}{25}$ 秒
以下、M球なら全速度に同調します。



セルフタイマーは

ミニスターにセルフタイマーが内蔵されてます。セル
フタイマーを使用する時はシンクロ切替えレバーをX接
点にしてから、セルフタイマーレバーをセットしてシャ
ッターボタンを押せば、セルフタイマーが作動します。



被写界深度とは



距離目盛

被写界深度目盛

レンズ距離目盛とならんで被写界深度目盛が刻まれています。この目盛の読み方は、今7 mの距離に被写体があり、絞り8とすれば▼印の両側の8の数値と対応する距離、すなわち約3.5 mから無限遠(∞)までピントが合うことを示すわけです。この目盛の利用によって早撮りやスナップが手軽るに楽しめます。

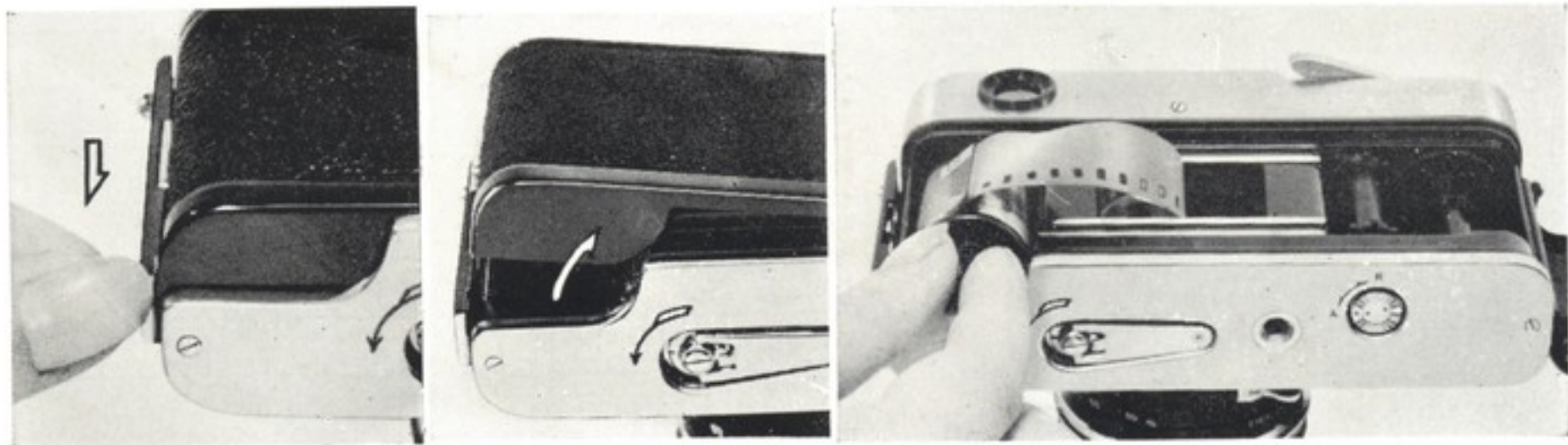
F 2.8 45mm 被写界深度表

距離 m	0.8	0.9	1	1.2	1.5	2	2.5	3	4	5	7	10	20	∞
F2.8	0.77 0.83	0.86 0.94	0.96 1.05	1.14 1.27	1.40 1.61	1.83 2.21	2.24 2.84	2.62 3.50	3.37 4.95	4.03 6.58	5.02 10.6	6.74 19.4	10.2 63.9	20.6 ∞
F 4	0.76 0.84	0.85 0.96	0.94 1.07	1.11 1.31	1.36 1.67	1.76 2.31	2.14 3.01	2.49 3.77	3.14 5.51	3.72 7.62	4.72 13.5	5.92 32.3	8.39 ∞	14.4 ∞
F5.6	0.75 0.86	0.83 0.98	0.92 1.10	1.08 1.35	1.31 1.75	1.68 2.47	2.02 3.28	2.33 4.21	2.89 6.50	3.38 9.64	4.18 21.6	5.09 29.9	6.81 ∞	10.3 ∞
F 8	0.72 0.89	0.81 1.02	0.88 1.15	1.63 1.43	1.25 1.88	1.57 2.74	1.87 3.79	2.13 5.08	2.58 8.86	3.05 16.0	3.56 198.2	4.20 ∞	5.31 ∞	7.21 ∞
F11	0.69 0.94	0.77 1.08	0.85 1.22	0.98 1.54	1.17 2.08	1.46 3.19	1.70 4.70	1.92 6.87	2.28 16.3	2.57 91.0	3.01 ∞	3.45 ∞	4.16 ∞	5.24 ∞
F16	0.66 1.01	0.73 1.18	0.79 1.36	0.91 1.77	1.07 2.52	1.30 4.37	1.49 7.84	1.65 16.7	1.91 ∞	2.11 ∞	2.39 ∞	2.66 ∞	3.06 ∞	3.61 ∞

フィルムの 入れ方

① まず、裏蓋開閉桿を指先で軽く下にさげれば、止め金がはずれます。止め金がはずれれば、自動的に裏蓋は開きます。

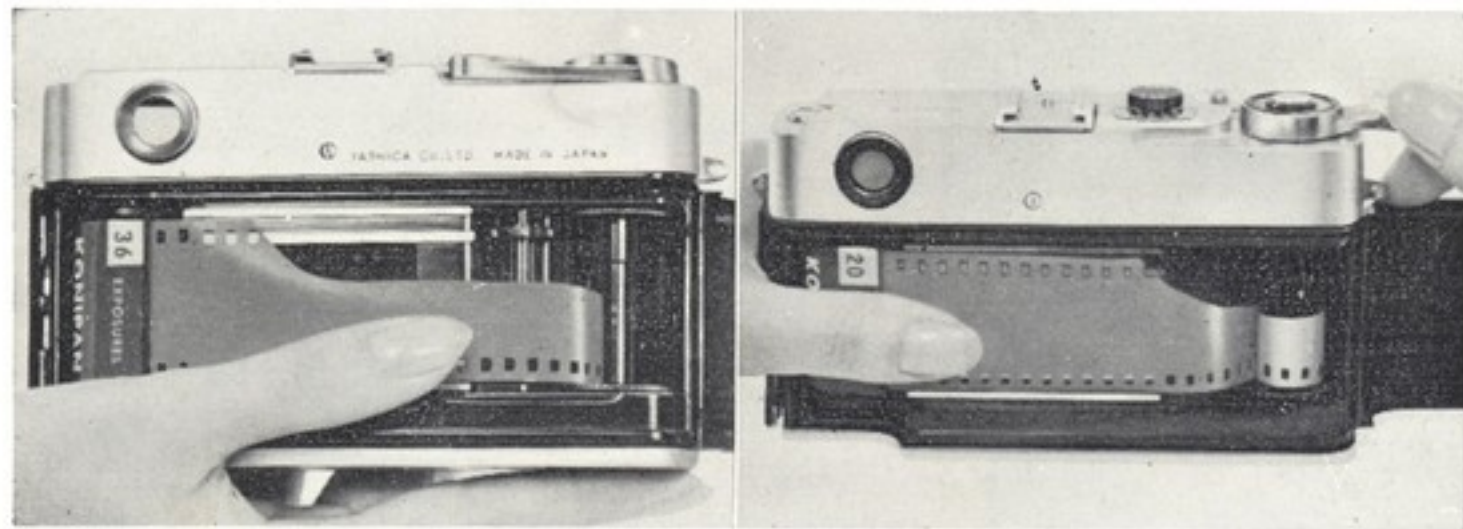
② 裏蓋が開いたら、フィルムパトローネを下から差し込むように正しく入れます。



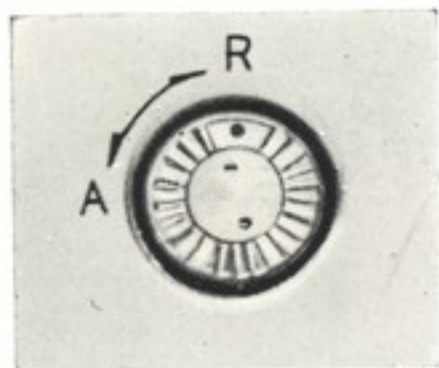
カメラにフィルムを入れる時
はなるべく直射光下をさけて日
陰を選んで行ってください。

③ フィルムパトローネからフ
ィルムを引き出し、巻取りスプ
ールにフィルムの先端を曲らな
いように十分差し込みます。

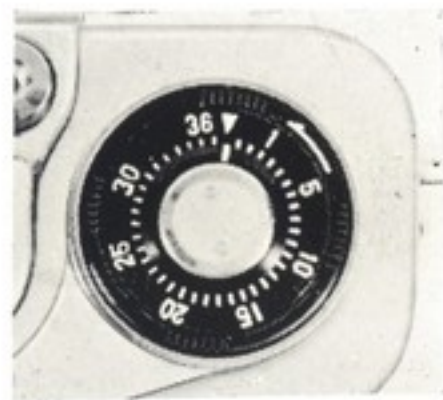
④ フィルムのパーフォレーシ
ョンをスプロケットの歯にかみ
合せ、レバーを軽く巻いて正し
く送られるかをたしかめます。



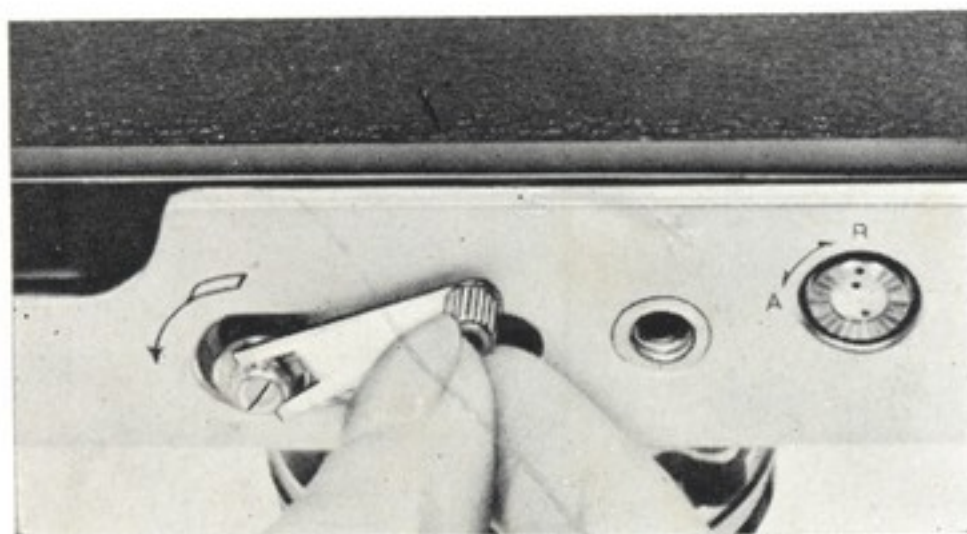
⑤ フィルムを入
れ終わったら、指先
で裏蓋を軽く押せ
ば、裏蓋は自動的
にしまります。

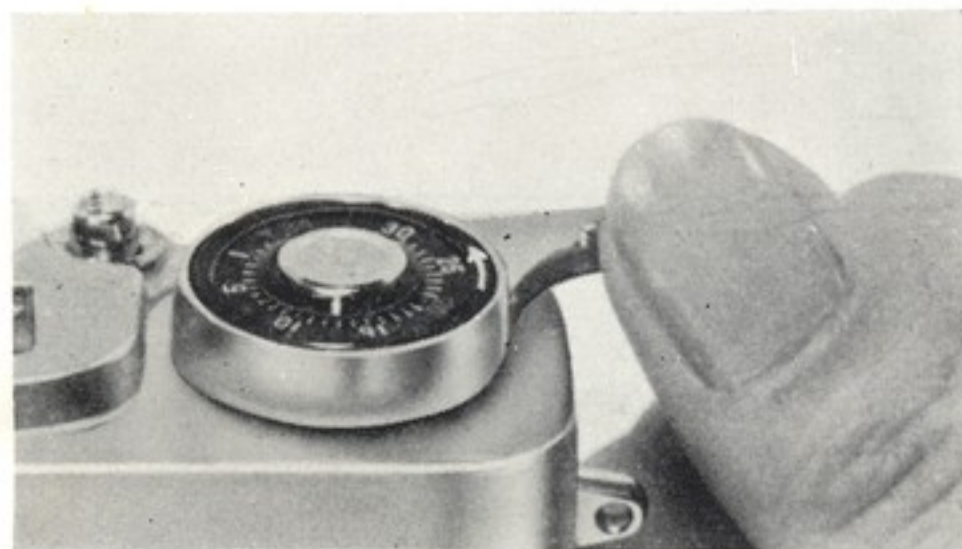


⑥ 裏蓋を閉めたら、底部の巻戻し切替えダイヤルを R に合せて、巻戻しクランクを起し、切替えダイヤルを A にもどして巻戻しクランクを矢印方向に軽く廻してフィルムのゆるみをなくしておきます



- ⑦ 巻戻しクランクをたおして、軽く押しもとどおり底部に格納します
- ⑧ フィルムカウンターの ∇ 印を、指標に合せておきます。これを忘れると撮影中何枚写したかがわからなくなりますから、必ず合わせておきましょう。

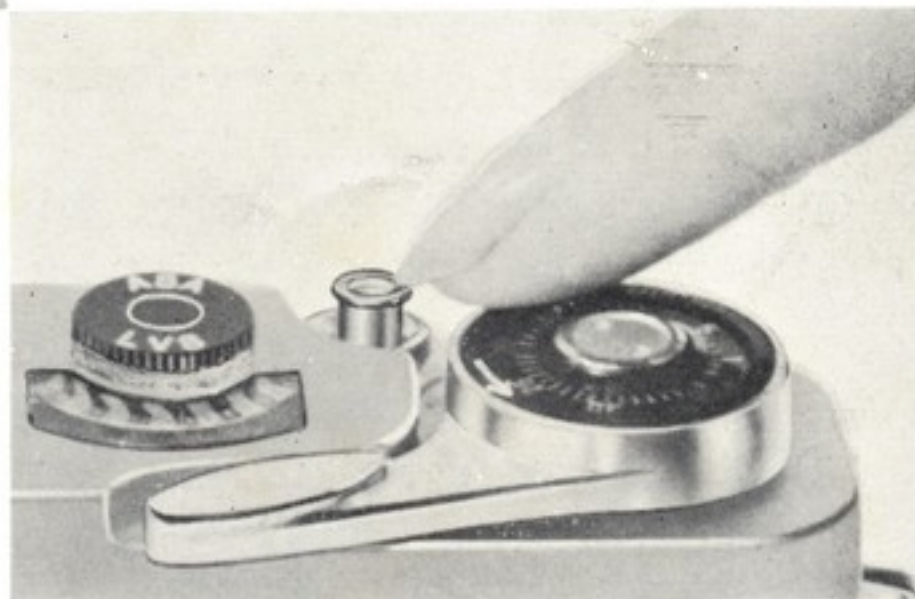




⑩ まず、シャッターボタンを押してからフィルム巻上げレバーを写真のように回します。この操作を（二回空うつし三回目本番）おこないますと、フィルムカウンターの指標に1がでます。こうなったら撮影を始めてください。



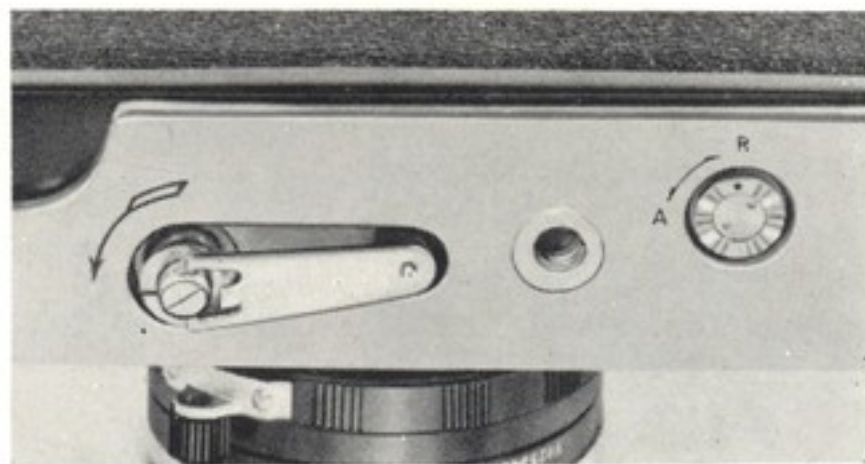
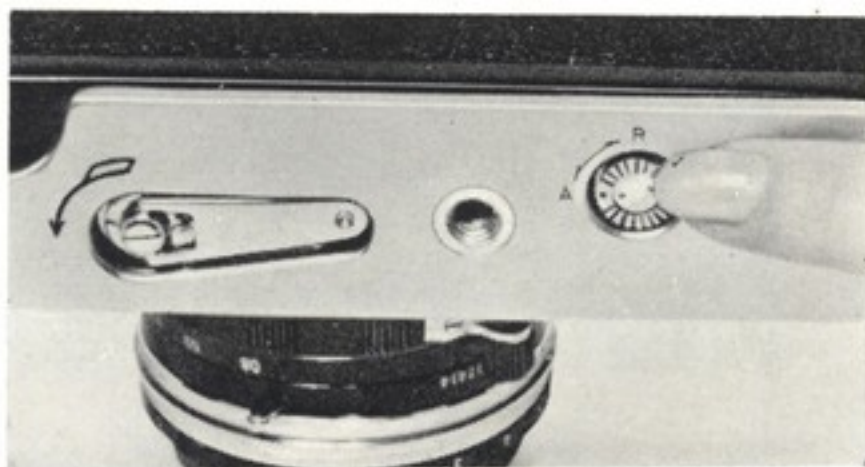
⑨ 次にフィルムASA感度表示窓にカメラに入れたフィルムのASA感度を必ず合わせてください。



フィルムの巻戻しは

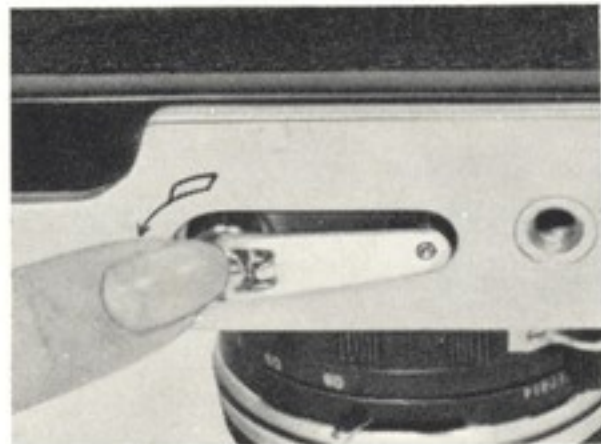
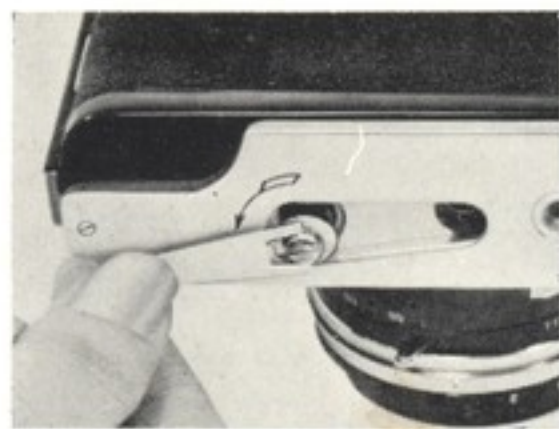
撮影が終わったら、フィルムをもとのパトローネへ巻戻さねばなりません。

- ① カメラを裏返して、巻戻し用切替えダイヤルを指先でRの方向に廻しRに丸点をしっかりと合わせます。
- ② すると巻戻し用クランクが自動的に飛びだします。
- ③ 飛びだしたクランクを起して、赤い矢印方向に巻いてゆきます。クランクハンドルの根本の凸部を溝に確実にはめてから矢印方向に回して下さい。最後にちょっと抵抗を感じますが、かまわず巻くとクランクが軽くなります。そこで巻くのをやめ、裏蓋を開き、パトローネをとりだします。





切替えダイヤルを A から R にする途中でクラックが飛びだしますが、この位置でダイヤルを止めてしまったのではまだスプロケットがフリーになっていませんから巻戻しはできません。ダイヤル指標、(黒丸)は必ず R の位置にきちんと止るまで回してから巻戻してください。



- ④ 巻戻しが終わったら、切替えダイヤルを A に合わせてクラックを軽く押せばクラックは元どおりカメラ底部に格納されます。

その他の注意すべきこと

- カメラは精密な機械ですから、機構の正しい操作に早くなれて、どんなところでもどんな時でも手早く正確に操作できるようにカメラを使いこなしてください。
- 露出計は勿論、カメラにとって絶対に注意して頂きたいことは、①ショックを与えないこと。乱暴に取扱ったり、落したりしないこと。露出計の狂う最大の原因はショックです。②湿気を与えないこと。③埃をさけること。カメラをしまっておく時にはビニールの袋などに入れて、湿気、埃から守ってください。④高熱をさけること。露出計は特に真夏の海岸の砂の上とか、暖炉の上など直接強い熱を受けやすい所にはおかないでください。

▷万一の故障について◁

ヤシカ製品は、厳重な検査を経て出荷されますから故障の心配はありません。しかし輸送中など不測の事態で故障が起ったり、万一使用中に故障があった時は、下記へ送りくだされば責任をもって修理いたします。

☆アクセサリー☆

- ヤシカミニスターには専用のフード及びフィルターが用意されています。
- フード(48mmカブセ) ¥550
- フィルター(46mmネジ込み)
UV・O₂ ¥550 Y₂ ¥480

ヤシカ製品についての御問合せは
下記へお願い申し上げます



株式会社 ヤシカ

本社	東京・日本橋室町1-8	
サービス部	本社内	TEL(241) 1346 4161
大阪出張所	大阪・南区長堀橋筋2の34の1	TEL(75) 3668
名古屋出張所	名古屋・中区東袋町3-2東袋町ビル内	TEL(9) 5650
九州出張所	福岡・天神町55 福岡証券ビル内	TEL(5) 4092
北海道出張所	札幌・北四条西四丁目の1日興ビル内	TEL(4) 3449

minister



YASHICA CO., LTD.